

「おいしい水」

ぼくの住んでいる所は、奈良県のほぼ中央にあたる天川村の洞川と言う所です。辺りは標高千メートルを超える山々に囲まれていて、その中でも大峰山が有名で、今でも女人禁制が守られており、千三百年の歴史を持つ世界遺産の山があります。その山を源流に山上川から、天の川さらには、十津川そして最後は新宮川と名前を変えて太平洋まで流れている川があります。その川の源流の近くにぼくの家があります。そして家にはぼくが生まれる前から二種類の水があります。一つは山上川の上流の水をくみ上げてきれいにごみを取り除いた後、そのまま水道水として使用している水と、もう一つは家の近くの山の中腹からわき出ている水をホースにより家まで引き、そのまま使用し「山水」と呼んでいる水があります。

天川村立洞川中学校 一年

新子 成大

なぜ二つの水があるかと言うと、川の水は大雨が降ると直ぐにごってしまい飲む事も、お風呂に入ると事でもできないからです。それに比べ山水はどんなに雨が降ってもわき水だからにこだわらないのです。でも山水は水道水に比べて水圧が弱いので、水洗トイレや、洗濯機には使えないので山水は飲料水として台所には使えません。その山水は、水道水と飲み比べてみると味が少し違うように思うのです。どう違うのか説明するのは難しいのですがとにかく「山水」のほうが飲んだ後、少し甘いような気がしてとってもおいしく感じます。このほかに洞川にはたくさんのおいしい水があります。その中でも環境庁の日本名水百選になっている「ごろごろ水」や「泉の森」、それに「神泉洞」と言った有名になった水が家から歩いて行ける所に三ヶ所もあります。

特に「ごろごろ水」は道路のそばにある洞穴からわき出ている事とあって年中、村外からたくさんの人達が訪れ、ペットボトルやポリ容器に水を入れて車で家に持ち帰っていました。

ぼくも「ごろごろ水」を飲んだ事はありませんが、山水と一緒にとつてもおいしいです。また、この「ごろごろ水」をペットボトルに入れてスーパーマーケットなどに販売している工場や「神泉洞」のわき水を同じように販売している工場もあり洞川にはおいしい水がいっぱいあります。

一年前の東北関東大震災の時、東京に住んでいる知人の人から赤ちゃんのミルクを作るのに放射能が混っているので、水道水を飲まされないと、どこの店も水が売り切れで大変困っていると連絡がありました。それから、みんなどペットボトルやポリ容器に水を入れて、すぐさま知人の人に水を送りました。

後日、知人の人から電話があり、「これで安心して赤ちゃんとミルクをあげられます。ありがとうございます。」と喜びの電話がありました。

ぼくは、このおいしい水が毎日飲む事ができる洞川に生まれて良かったと思います。これからもおいしい水がいつまでも飲めるように願っています。